

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

カナダ・サスカチュワン州首相が 全農訪問

(耕種資材部)

4面

「一球牛魂! 和牛ナイター」で 消費後押し

(畜産総合対策部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

News!



カナダ・サスカチュワン州首相が全農訪問

カリ肥料の安定確保に向けた協力関係を確認

耕種資材部



懇談に参加したモー首相(右から2人目)、尾本専務(中央)、日比常務(左)



協力関係の強化を確認

カナダは世界最大のカリ肥料の生産・輸出国で、世界の生産量の3割以上を占めています。また、サスカチュワン州は同国におけるカリの最大生産地です。全農は、1962年に日本勢で初めてカナダ産カリを輸入し、現在に至るまで累計930万トンを輸入してきました。近年では、ロシアのウクライナ侵攻などの国際情勢により、世界的にカリの需給が逼迫する場面もありました。

カナダからは安定した調達が実現できており、最も信頼性の高い肥料輸入先の一つとなっています。懇談では、尾本専務が継続した安定供給を依頼し、モー首相からは長年にわたる友好関係について謝意が伝えられ、今後も協力関係をより一層強化していくことを双方で確認しました。全農では肥料原料の安定確保に向けて、海外の関係先とのさらなる関係強化に取り組んでいきます。

カナダ・サスカチュワン州のスコット・モー首相、ウォーレン・ケーディング州貿易担当大臣らが9月11日、JABビル(東京・大手町)を訪れ、尾本英樹代表理事専務と懇談しました。

News!



「協同組合×SDGsフェスティバル」に参加

「小島よしおショー」に秋田県産米おにぎり

秋田県本部



「いただきオッパッピー」の掛け声でおにぎりを食べました

イベント会場となった秋田駅前アゴラ広場では、「協同組合」や「SDGs活動」を楽しみながら知ってもらおうと県内8団体のブースが並び、飲料や加工品を販売しました。また、ミニゲームや体験コーナーなども設けられ大勢の来場者でにぎわいました。

隣接するANAクラウンプラザホテルでは、「小島よしおネタ&トークショー」が行われ、SDGs仕様の17色の海水パンツで登場した小島さんに大声援が送られました。小島さんは農業に関する活動にも力を入れていて「肌を露出する機会が多いので、引き締まった体を維持しようと野菜や、お米、お肉をバランスよく食べている」と話しました。さらに、SDGsの活動や農業教育に関心を持ったきっかけなどについて、笑いを交えながら語りました。

秋田県本部は、秋田県農業への理解醸成を図る「eat AKITAプロジェクト」の一環でトークショー来場者300人に秋田県産米おにぎりを配布しました。来場者は小島さんと一緒におにぎりを食べて秋田の農業を応援しました。

秋田県本部は8月23日、国連が定めた国際協同組合年に合わせ、県内協同組合組織が連携し開催した「協同組合×SDGsフェスティバル」に参加しました。



ランナーに藻塩はっさく水、レモン水提供

ひろしまクロスカントリー大会に協賛

広島県本部



スタートの合図とともに
駆け出すランナー

標高700m以上の爽やかな高原地帯に広がる芝常設のクロスカントリーコースがある「道後山高原クロカントリーパーク」を舞台に、188歳の一般ランナーと実業団のトップアスリートらが参加するひろしまクロスカントリー大会が行われました。当日の最高気温が30度を超える中で、参加者の皆さまに「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供しました。水分と塩分の補給

広島県本部は、8月23日に開催された第26回ひろしまクロスカントリー大会にメインスポンサーとして協賛し、5kmの部のスターターを務めた他、ゴール後、全ランナー917人に「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供しました。

を兼ねておいしく飲んでいただきました。

スターターを務めた広島県本部改革推進課の狩谷伸午課長は「本大会の第1回から協賛させていただいており、今年で26回目。毎年、地元の有力な実業団選手をはじめ、県内外の中高生も参加する大会。これからも多くの方に参加していただけるよう、支援していきたい」と力を込めました。

広島県本部は、今後もスポーツを頑張る人たちに「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。



レース後、広島県産飲料を飲む参加者



「農協シリーズ」に新商品ヨーグルト

国産生クリーム使用 濃厚、すっきりとした甘さ

酪農部



(右) 農協 信州あづみ野のむヨーグルト
(左) 農協ヨーグルト濃厚クリーム仕立て



「農協 信州あづみ野のむヨーグルト」は信州産生乳を70%使用した、飲むタイプのヨーグルトです。国産生クリームを合わせて、搾りたてのような自然なコク

全農と協同乳業(株)は全農グループが展開する「農協シリーズ」の新商品として、「農協 信州あづみ野のむヨーグルト」と「農協ヨーグルト濃厚クリーム仕立て70g×3個」を9月29日から全国の量販店で発売しています。

と、まろやかでやさしい口当たりを実現しました。甘みには三温糖のみを用いてすっきりとした甘さに仕上げました。さらに、東京大学で発見された「11/19-1B1乳酸菌」を配合し、良質な素材のおいしさにプラスのおいしさをお届けします。

「農協ヨーグルト濃厚クリーム仕立て70g×3個」は信州産生乳と国産生クリームを使用し、濃厚でクリーミーな味わいに仕上げました。甘みには三温糖のみを加えコクのある味わいとすっきりした甘さを両立しました。さらに乳酸菌を配合し、プラスのおいしさをお届けします。3連タイプで登場し、家族みんなでシェアして楽しめるヨーグルトです。

「一球^牛魂! 和牛ナイター」で消費後押し

北海道日本ハムファイターズ vs 東北楽天ゴールデンイーグルス戦



ちよっといい日に
和牛をたべよう!

JA全農 × ニッポンハム プレゼンツ

一球^牛魂! 和牛ナイター

選手に農畜産物を贈呈する

全農の桑田理事長(中央右)と日本ハムの木藤会長(中央左)

▲日本ハムとともに和牛ナイターで和牛消費を呼びかけ



始球式に登場した石川さん

全農は「焼肉の日」の8月29日、北海道北広島市のエスコンフィールドHOKKAIDOで開かれたプロ野球北海道日本ハムファイターズvs東北楽天ゴールデンイーグルス戦で「JA全農×ニッポンハムプレゼンツ 一球牛魂! 和牛ナイター」を開催しました。昨年度に引き続き、和牛消費喚起キャンペーンの一環として、包括的な事業連携を発表した日本ハム(株)との共催になります。約3万1000人の来場者とメディアに「ちよっといい日に和牛をたべよう!」というメッセージを発信しました。

【畜産総合対策部】

試合前に行われた記念品贈呈では、全農の桑田義文代表理事理事長から黒毛和牛ローストビーフ、日本ハムの木藤哲大会長からシャウエッセンを北海道日本ハムファイターズの選手へ贈呈しました。

始球式は、全農所属で全農オフィシャルアンバサダーの石川佳純さんが務めた他、石川さんが出演する和牛消費喚起動画を大型サイネージやコンコースで放映しました。

その他、和牛理解醸成ブースでの和牛シールの配布や「ちよっといい日に和牛をたべよう!」のメッセージを記載したオリジナルうちわを配布、球場ラウンジ来場者約1100人には和牛の試食を提供しました。さらに、北海道江別市のこども食堂を利用する60人を招待し、野球観戦や和牛弁当を提供するなど和牛づくしのイベントとなりました。

今年は新たな取り組みと



MVP賞を贈呈する全農の齊藤専務

して日本ハム・雪印メグミルク(株)・よつ葉乳業(株)と共同で「知って欲しい。お肉、牛乳、卵ができるまで」と題し、畜産・酪農のサステイナビリティーに関するブースを展開しました。

試合は北海道日本ハムファイターズが5-0で勝利し、MVP賞として全農の齊藤良樹代表理事専務が北海道産黒毛和牛サーロイン1頭分を北山亘基選手と水谷瞬選手に贈呈しました。

全農は今後も和牛消費の拡大に向けた取り組みを進めます。

農家所得向上、地域振興へ 新品種やスマート農業導入

JA岡山 (岡山県)



概要

2025年3月31日現在

正組合員数	2万3981人
准組合員数	2万8930人
職員数	939人
販売品取扱高	107億1千万円
購買品取扱高	38億5千万円
貯金残高	5591億2千万円
長期共済保有高	1兆1303億4千万円
主な農畜産物	米麦、桃、ブドウ、花き

JA岡山は、岡山県南部に位置し、瀬戸内海沿いの温暖な気候を生かした、多種多彩な農作物の生産が行われています。なかでも、白桃やブドウなどの果物については全国でも有数の産地です。

JA事業では、地域営農振興の指針として、管内農業の現状と課題を把握し、10年後のあるべき姿を見据えて「JA岡山営農振興計画 組合員・地域とともに歩む」協同活動と総合事業の好循環（2025～27年度）を策定しました。地域農業の活性化に向けた活動テーマとして、『よりよい営農活動』に向けた『提案型営農指導』による『農家所得の向上』を掲げ、『農畜産物の生産振興』『販売力の強化と販売体

制づくり』『営農指導体制の充実』に取り組んでいます。

水稻収量安定めざし 新品種「つやきらり」

JAでは、近年の夏場の猛暑による水稻中生品種の品質低下と収量減少が喫緊の課題となる中、高温耐性品種として「つやきらり」に着目し、普及拡大に取り組んでいます。「つやきらり」は九

州沖縄農業研究センターで2018年に品種登録された暖地・温暖地適合の中生品種で、害虫耐性と多収性を備える点が特長です。

23年度からの2年間、管内に実証試験圃場（ほしやう）を設け、地域適応性を検証し「高温耐性・多収性・品質・食味・成熟時期」の5項目について評価を行いました。管内9カ所

5・4畝の圃場で実証を実施し、品質・収量ともに良好でした。24年産の1等比率は



「つやきらり」植え付け

「つやきらり」の生育状況を
確認するJA職員

画像診断データ活用 生育に応じ営農指導

JAではザルビオフィールドマネージャー（栽培管理支援システム）を活用し、水稻の生育ステージごとの画像診断データを用いた営農指導を実践し担い手農家との結び付きの強化を図るとともに、収量性と品質の向上に取り組んでいます。



担い手農家向けザルビオ研修会

ザルビオは、人工衛星画像とさまざまな情報を人工知能（AI）により解析し、圃場ごとの病害の発生時期や生育ステージを予測し、予防に適した散布時期や最適な作業タイミングについて情報提供を行う技術です。今後は、管内の利用者とのアカウント連携と診断結果に基づく情報分析の共有により効率的な運用を図り、スマート農業の普及拡大に取り組めます。



「やさいの日」 に合わせ フェアやイベント

8月31日の「やさいの日」を中心に、
全農は8、9月に野菜の
消費推進活動を繰り広げました。
各地の取り組みを紹介します。

茨城県本部

直売所で親子楽しむイベント 家庭菜園相談や「やさい福笑い」

茨城県本部はポケットファームどきどき茨城町店で8月31日の「やさいの日」に合わせたイベントを開催し、数量限定でお得な野菜セットを831円で販売しました。

また、生産者と消費者をつなぐ機会として、家庭菜園のお悩みを相談できる「農家さんに相談コーナー」を設置しました。キッズコーナーでは「やさい福笑い」や生産者による「種まきワークショップ」を実施し、親子で楽しめるイベントとなりました。



(上) 親子で楽しめる種まきワークショップ
(左) 野菜をモチーフにした福笑い

宮城県本部

15団体が出展し「フードフェスタ」 農畜産物販売や体験型プログラム

宮城県本部は「仙台緑彩館 青葉山公園」を会場に「8.31はやさいの日!『みやぎフードフェスタ』」を開催しました。

農業に対する理解を深めるとともに、農畜産物の販売や体験型のプログラムを通じて消費者との交流促進を目的に、県内JAや卸売市場など15団体が出展しました。県産青果物を景品とした野菜ガチャやえだまめのジョッキ詰め放題など工夫を凝らしたブースが展開され、会場はたくさんの人でにぎわいました。



多くの来場者で
にぎわう会場

えだまめ詰め放題を
行う来場者

新潟県本部

だいきらい野菜バイト～夏やさい編～ 親子15組がクイズや収穫体験

新潟県本部は8月31日、新潟市アグリパーク*と合同で、野菜嫌いの小学生を対象に“きれいな野菜を収穫する”条件付きアルバイト「だいきらい野菜バイト～夏やさい編～」を開催しました。

昨年11月の「秋やさい編」に続き4回目。小学生以下の子どもの保護者15組44人が参加しました。野菜クイズや収穫体験を通じて、野菜に関する知識を深めてもらい、収穫した新鮮な野菜は参加した子どもたちにプレゼントしました。



(上) 県本部職員による
野菜クイズ
(左) 子どもたちによる
エダマメの収穫体験

*新潟市アグリパークとは

新潟市にある「農業を学ぶ日本初の公立教育ファーム」で農産物の収穫体験、料理体験のほか、就農支援や6次産業化への取り組みを支援する施設

岡山県本部

倉敷アイビースクエアピアガーデンで 夏野菜と桃太郎トマトのコラボフェア

岡山県本部は7月下旬～8月上旬、倉敷アイビースクエアピアガーデンで、岡山県産夏野菜と桃太郎トマトのコラボフェアを実施しました。

フェアで使用する桃太郎トマトを含めた県産夏野菜は、県本部やJAから提供され、県産夏野菜をふんだんに使用したコラボメニューを特別に開発しました。

県内屈指の観光地であるアイビースクエアのピアガーデンでフェアを実施することで、県内はもちろん、観光客に向けてのPRにつなげます。



(上) JAコラボメニュー

(右) コラボメニューを紹介する
倉敷アイビースクエアの
福武秀浩シェフ
(7月10日、倉敷市で)



イベントの様子

広島県本部

「3-R」6周年イベントを開催 野菜の日と連携し取り組みをPR

広島県本部は8月31日、耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」が6周年を迎えることを記念し、とれたて元気市広島店で3-Rの6周年イベントを開催しました。

野菜の日と連携したイベントとして3-R循環野菜をはじめとした3-R商品を用意し、同店にテナント出店している「くろべんととれたて元気市広島店」、「みのりカフェ 元気市広島店」やキッチンカーで出店した「電光石火」「餃子家龍」「ジェラテリアクラキチ」に提供しました。

当日限定の3-R食材を使用した商品を販売し、イベントを盛り上げながら、3-Rの取り組みを周知しました。

大分県本部

「お野菜モリモリ大集合！」 大分県産野菜・果物の魅力PR

大分県本部は8月31日、県内の大型ショッピングモールで、大分県産青果物の魅力を発信するイベント「お野菜モリモリ大集合！」を開催しました。

地元食材の認知度向上を図ることを目的に、ピーマンやトマトなどの夏野菜を中心とした試食品配布や販売を行い、来場者に新鮮な味覚を届けました。

また、すいか割りや野菜〇×クイズなどのステージイベントを実施し、参加者からは「野菜について楽しく知ることができて勉強になった」といった声が聞かれました。



ニラチヂミの試食品を無料配布

「元気わくわくキッズプロジェクト」を開催

ブラウブリッツ秋田と田んぼで稲刈りを実施



稲刈りに参加した子どもたちと岡崎選手(後方右)と堀内選手(後方左)

秋田県本部は9月23日、サッカーJ2リーグのブラウブリッツ秋田との共同企画「元気わくわくキッズプロジェクト」を開催し、田んぼで稲刈りを行いました。【秋田県本部】

参加した子どもたちは、5月下旬に同プロジェクトで田植えをした田んぼで、ブラウブリッツ秋田の岡崎亮平選手と堀内智葵選手と一緒に手刈りを行いました。

約4か月で大きく成長した稲に感動しながら、田んぼに入り鎌を持つ手に緊張しながらも、作業を進めるうちにコソをつかみ手際よく稲刈りに汗を流していました。収穫した米は、10月26日に開催される「JA全農あきたPresentsブラウブリッツ秋田ホームゲーム」で両チームへ贈呈されます。

「畑から生まれたたまご」シリーズ拡充へ

植物性卵で多様な食の選択肢を

JA全農たまご(株)は、植物性の卵「畑から生まれたたまご」の新たなラインアップとして「たまごサラダタイプ」を9月29日から発売しています。従来の「スクランブルタイプ」と合わせ、シリーズとして展開します。多様化する食のニーズに応え、「たまご料理の美味しさを、すべての人に」届けることを目指します。

【JA全農たまご(株)・営業開発部】

新発売の「たまごサラダタイプ」は、国産のカボチャ、白インゲンマメ、ニンジンを使用しています。程よい酸味とやさしいコクが特徴のマヨネーズ風味で、白身風の具材がたまごサラダらしい食感を再現しています。



左
畑から生まれたたまご
スクランブルタイプ

右
畑から生まれたたまご
たまごサラダタイプ

スクランブルタイプは、国産白インゲンマメやニンジンなどを使用し、カゴメ(株)と2foodsの独自技術である「野菜半熟化製法」の提供を受け、オムライスなどに最適な“ふわとろ”の食感を再現しています。

JA全農の産地直送通販サイト JAタウン ショップ紹介



まるっと完食おおいた ～美味しいもんいっぱい送っちゃけん～

現在、カボスの生産者は高齢化により収穫作業が困難で、全てを緑色の状態で収穫することが難しくなっています。

収穫できなかったカボスは廃棄されることもありますが、太陽を浴びて黄金色に熟した「完熟かぼす」は、まるやかな酸味と甘味を持ち特別な味わいです。

しかし、傷みやすいため生果の流通が難しく、主に大分県内での消費にとどまっています。JAタウンでは、「完熟かぼす」を産地直送で品質を保った状態でお届けします。「完熟かぼす」の消費拡大に、ぜひご協力をお願いします。



【ご家庭用】黄かぼす
4号(大分県産)
…1600円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

